

令和7年度 第72回 全国高等学校ワープ口競技大会 (7. 7. 29)

【競技問題】

商業施設を訪れた際、カプセルトイの自動販売機が大量に並んでいるのをよく見る。この機械に硬貨を投入してからハンドルを回すと、容器に入った玩具が出てくる。現在は子どもだけでなく、女性を中心とした大人の利用者も増えてきた。その市場規模は、出荷額で一千億円を超え、ここ数年で大幅に拡大している。

カプセルトイの原型は、アメリカで生まれたガムの自動販売機といわれている。やがて、球体の容器が開発されると、その中に小さな玩具を入れて販売されるようになった。1965年に、現地での流行の影響を受け、日本で初のカプセルトイの自動販売機が東京に設置された。1970年代には日本各地に広がり、キャラクターや車の形をした消しゴムが人気を博した。

1990年代には、コレクターでも満足できる高品質の商品が作られ、利用者の年齢層も広がり始める。2012年になり、コップのふちに掛けられる人形が発売され、カプセルトイが女性人気を得る大きな契機となった。実際にコップに掛けた写真をSNSに投稿することが流行し、大人の利用者が増えた。この頃から、大人向けの話題になりそうな商品が、相次いで開発されるようになる。

インバウンド需要が高まりを見せると、空港内にカプセルトイのコーナーが設置された。本来の目的は、帰国する観光客に日本円を使い切ってもらったことだったが、品質も高く土産に最適だと評判になった。場所を取らず低コストで運営できる利点を生かし、全国の観光地にも次々と設置された。

2020年になり、全国の商業施設で空き物件が目立つようになると、そこにカプセルトイ専門店が次々と出店された。それまでの設置場所は店の端が多く、利用者は買い物のついでに購入していくのが一般的であった。しかし、それを目的として専門を訪れる人が増え、一層流行して現在に至っている。

多くの人の関心を集めるカプセルトイには、様々な魅力がある。開封する瞬間の高揚感を挙げる人もいれば、単純にハンドルを回すことが楽しいという人もいる。また、商品の品質の良さや品ぞろえ

の豊富さに感動する人も多い。お菓子や動物を模造し、本物と間違えるくらい細部まで忠実に再現された商品もあり、世代を超えて愛されている。	888 918 925
さらに、繰り返し挑戦すれば、高確率で目当てのものが手に入るのも魅力だ。そのため、収集欲が刺激され、シリーズを全種類制覇することを目指し、何回も購入する人もいる。しかし、必要以上に入手した商品の処分に困らないように、節度ある購入を心掛けることも大切である。	955 985 1015 1045 1054
専門店には、様々な商品の自動販売機が数多く設置されており、カプセルトイに興味を持った人々が訪れる。店内は、目的のものを探したり、何を購入するか悩んだりする人で賑わっている。ほとんどが硬貨を用いる仕様であり、300円や400円が一般的な価格であるため、頻繁に両替機が利用されている。最近の自動販売機には、電子マネーやQRコードで決済できる機種もある。	1084 1114 1144 1174 1204 1230
来客数を増やすために、専門店は様々な工夫を凝らしている。例えば、モニターを設置してカプセルトイを作っている映像を流したり、歴史がわかる資料を展示したりする店舗がある。また、遊園地や薬局といった特定のテーマに沿った内装にして、注目を集めるところもある。	1260 1290 1320 1350 1357
店内に撮影スポットを備えた店舗もあり、日常風景や観光名所などのジオラマが用意されている。店内で購入した商品を飾って写真を撮り、SNSに投稿するという一連の流れが、女性客を中心に受け入れられている。その画像を目にして購買意欲を刺激され、足を運ぶ客も多い。複数の店舗を回り、比較するのも楽しみ方の一つである。	1387 1417 1447 1477 1507 1511
公式アプリに登録すると、ポイントが貯められる専門店もある。来店した際、掲示されたQRコードを読み取るとポイントが付与され、各種チケットと交換できる。例えば、欲しい商品が出なかったときに再挑戦できるものもあれば、目当ての商品を受け取れるものもあり、顧客のニーズに応えた取り組みといえる。	1541 1571 1601 1631 1655

一般的な店舗ではあまり見かけないが、1000円を超える高額	1685
な商品を取り扱うところもある。細部まで徹底的にこだわって作ら	1715
れた精巧な造形は、その高い価格に見合ったものといえる。先例の	1745
ない仕掛けの搭載や予想外の大きさに魅力を感じ、自分へのご褒美	1775
として購入する人もいる。	1788
専門店に限らず、設置場所の工夫や店舗独自の商品提供などによ	1818
り、効果的な集客方法を模索しているところも見られる。例えば、	1848
電車や映画上映までの待ち時間に利用してもらうため、駅の構内や	1878
映画館のロビーに店舗を構える場合もある。幅広い通路を活用して	1908
大量の自動販売機を設置し、通行人に購入してもらう例もある。ま	1938
た、ある寿司屋では期間限定で、看板キャラクターの限定グッズを	1968
取り扱っている。さらに、ある水族館では、海の生き物を主題にし	1998
た自動販売機を集めて企画展が行われた。	2018
地域ならではの観光名所や名産、キャラクターに関連したものを	2048
ご当地グッズというが、それに関するカプセルトイも増えている。	2078
人形だけでなく、キーホルダーや巾着、缶バッジなどの多彩な商品	2108
があり、それらを目当てに日本各地を巡る人々もいる。そこでしか	2138
購入できなかったり、地域の特徴をわかりやすく表現してあったり	2168
することが、土産として喜ばれる要因だ。本物の真珠や伝統工芸品	2198
を扱っている自動販売機は、一般的なものと比較すると高額だが、	2228
地元の名産品や工芸品を手軽に入手できるので好まれている。	2257
電子商取引の需要が拡大する中、カプセルトイのオンライン購入	2287
も注目されている。利点の一つとして、自宅にいながらにして簡単	2317
に手に入ることが挙げられる。また、実店舗では実現できない商品	2347
があるのも人気の理由だ。画面上のハンドルを回したり、カプセル	2377
を開封したりする際に特別な映像が流れる。電子決済の場合は現金	2407
で支払うときと比較して、よりお金を使い過ぎるという欠点もある	2437
ため、注意が必要だ。	2448
カプセルトイの市場規模が拡大するにつれ、同時に様々な問題が	2478
顕在化してきている。例えば、環境面の問題がある。商品が入った	2508

カプセルはプラスチック製が多く、処分する際に、温室効果ガスの	2538
排出や海洋汚染などが起きてしまう。その対策として、リサイクル	2568
をするために、専門店によっては容器の回収に特別な工夫をしてい	2598
る。ある店舗に設置されたカプセル回収機は、投入するとコロコロ	2628
と転がっていく様子が見られ、視覚的に楽しめる。また、容器を使	2658
わない商品や紙製の容器も開発されており、環境に配慮した取り組	2688
みが行われている。	2698
日本で初めてカプセルトイが発売されてから、50年以上の年月	2728
が経過した。場所を取らず低コストで運営できるため、首都圏の主	2758
な都市周辺では、専門店は飽和状態にあり、店舗間の競争が激化し	2788
ている。生き残りをかけて各店舗では、消費者の多様なニーズに応	2818
えながら差別化を図っている。精巧な造形や特殊な仕掛けを搭載し	2848
た商品の開発に加えて、ポイントサービスの実施や撮影場所の設置	2878
など、消費者の心をつかもうとする創意工夫が見られる。	2905
最近では、海外でカプセルトイの専門店を開店する企業も出てき	2935
た。その店舗では、日本でしか購入できなかった人気キャラクター	2965
のほか、精巧な作りが有名な食品サンプルなどが販売されている。	2995
アメリカで生まれたこのカプセルトイは、日本で幾度ものブームを	3025
経て、経済規模は拡大し続けている。今後、カプセルトイが世界中	3055
で成長することを願いたい。	3068